

MAX[®]

証券コード:6454



MAX REPORT

株主のみなさまへ

86期報告書

自 平成28年4月1日 ▶ 至 平成29年3月31日

経営基本姿勢

いきいきと楽しく力を合わせ 皆揃って成長していく集団を目指す

1. ガラス張りの経営に徹する

連結決算を重視し、一般に公正妥当な会計基準に基づき、企業の方針、業績、実態を適時・適切に社内外に公開してまいります。

2. 全員参画の経営に徹する

社員は仕事を通して積極的に経営に参加し、それぞれの役割の中で事業成果を拡大してまいります。

3. 成果配分の経営に徹する

結実された成果は、「株主」「社員」「社会」に公正に配分してまいります。

経営基本姿勢	1	セグメント別の概要	5・6
株主のみなさまへ	2	次期事業計画について	7・8
財務ハイライト	3	会社情報/株式の状況	9
連結財務諸表	4	利益配分に関する基本方針/配当/株主メモ	10

※本資料の将来に係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の事業は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろから格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、当社グループ第86期(平成28年4月1日～平成29年3月31日)の業績の概要と第87期の見通しについてご報告申し上げます。

ご報告

第86期の概要について

当期におけるわが国経済は、雇用・所得情勢の改善を受けて個人消費に持ち直しの動きが見られるなど緩やかな回復基調となりました。当社事業に影響を与える国内新設住宅着工戸数は、政府の住宅取得支援策や日本銀行のマイナス金利政策による住宅ローン金利の低下を背景に戸建て住宅や賃貸住宅の着工戸数が堅調に推移しました。

海外では、米国経済において雇用環境の改善による個人消費の増加や設備投資の持ち直しなど景気拡大が継続し、欧州経済においても量的金融緩和を下支えに緩やかな景気回復が見られました。一方で、中国やアジア新興国の一部で成長が減速したことや、英国のEU離脱問題および米国の新政権の政策運営に不確実性が残るなど、当社を取り巻く事業環境は先行き不透明な状況で推移しました。

第86期の取り組みについて

このような状況の下で当社グループは、『1. 成長事業の確立 2. 収益力の強化 3. 自ら考え、行動を起こす』を当期の経営方針として掲げ、その実現に向けて①成長分野への投入シフト②消耗品ビジネスの再構築③設備投資・拠点再編によるコストダウン④新規技術領域の探索と深耕の4つの基本戦略を実行することで持続的な成長を図り全社収益の向上を目指してまいりました。

この結果、売上高は669億6千7百万円(前期比0.7%の増収)、営業利益は63億2千3百万円(同7.5%の増益)となりました。経常利益は64億5千5百万円(同11.4%の増益)、親会社株主に帰属する当期純利益は47億2千6百万円(同34.6%の増益)となりました。

第87期の見通し

日本経済は雇用・所得環境の改善による個人消費の底堅い推移や公共投資の増加などにより回復傾向を継続することが想定されます。新設住宅着工戸数は、第86期では住宅ローンの低金利環境に加えて、相続税対策による貸家建設の増加が全体の押し上げ要因となり増加基調で推移しましたが、今後は賃貸住宅市場の空室率上昇への懸念など貸家建設を中心とした着工戸数は減少する可能性があり、不透明な状況が見込まれます。

海外においても、米国・欧州経済は安定した成長の継続が見込まれるものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動など、当社グループをとりまく事業環境は依然として予断を許さない状況となる見通しです。

第87期業績につきましては、①コンクリート構造物向け工具②表示作成機「ビーポップ」事業において、国内外での販売チャネルの構築と使用現場の問題解決によりビジネス拡大に取り組むことで増収増益を計画しております。

第87期の売上高は705億円(前期比+5.3%)、営業利益は65億円(同+2.8%)、経常利益は66億5千万円(同+3.0%)、親会社株主に帰属する当期純利益は46億5千万円(同△1.6%)を計画しています。

平成29年6月

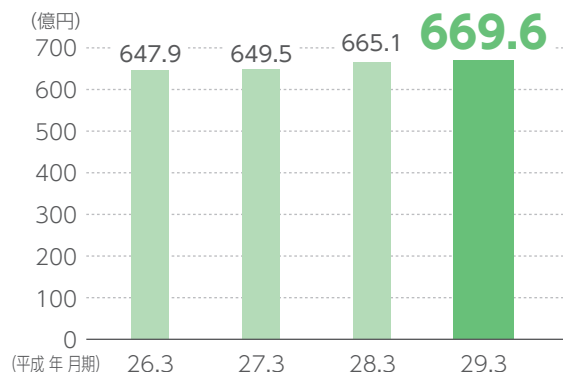
代表取締役社長

黒沢光照



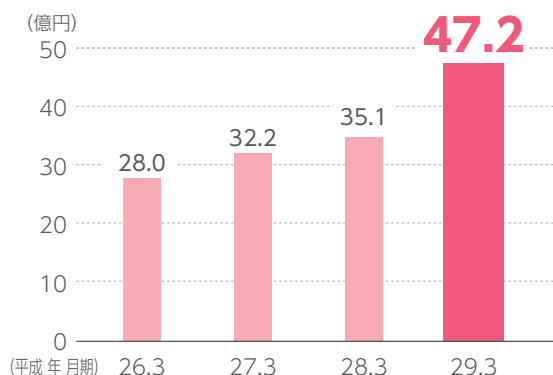
連結損益計算書の概要

売上高



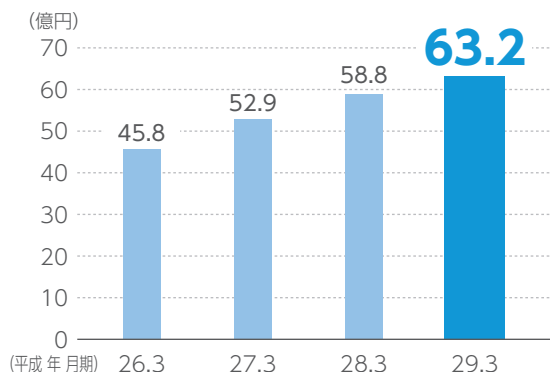
国内の新設住宅着工戸数の堅調な推移を背景に、国内機工品事業や住環境機器事業が牽引し、増収となりました。

当期純利益(*)



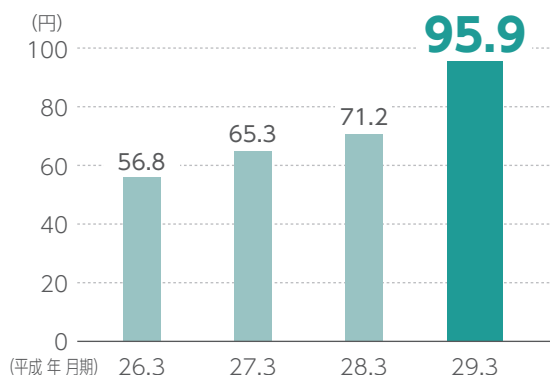
外貨建て資産等の為替差損が前年に比べ減少したこともあり、12.1億円の増益となりました。

営業利益



着実なコストダウンと販売数量増により、営業利益率は9.4%と前期実績の8.8%から伸長しました。

1株当たり当期純利益



当期純利益の増加により、前期の71.2円から95.9円に増加しました。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計年度 (平成28.3.31現在)	当連結会計年度 (平成29.3.31現在)
資産の部			
流動資産		44,693	49,916
固定資産		44,134	43,084
有形固定資産		17,298	17,342
無形固定資産		717	496
投資その他の資産		26,118	25,245
資産合計		88,828	93,000
負債の部			
流動負債		11,519	12,592
固定負債		13,045	13,197
負債合計		24,565	25,789
純資産の部			
株主資本		66,277	69,059
その他の包括利益累計額		△ 2,126	△ 1,948
少数株主持分		112	100
純資産合計		64,263	67,210
負債・純資産合計		88,828	93,000

損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計年度 (皇 平成27.4.1 皇 平成28.3.31)	当連結会計年度 (皇 平成28.4.1 皇 平成29.3.31)
売上高		66,510	66,967
売上原価		41,083	40,385
売上総利益		25,426	26,582
販売費及び一般管理費		19,543	20,259
営業利益		5,883	6,323
営業外収益		341	367
営業外費用		432	234
経常利益		5,792	6,455
特別利益		142	17
特別損失		225	123
税金等調整前当期純利益		5,710	6,349
親会社株主に帰属する当期純利益		3,512	4,726

Point

- 1 現金及び預金が増加したことなどにより、流動資産が増加しています。
- 2 未払法人税等や賞与引当金が増加したことなどにより増加しています。
- 3 販売数量の増加による増収とコストダウンによる売上原価の減少により売上総利益は増加しました。
- 4 税引き前当期純利益の増加や法人税等の支払額の減少などにより、増加しています。
- 5 営業活動によるキャッシュ・フローの収入に対し、投資活動、財務活動によるキャッシュ・フローの支出が下回ったため、残高が増加しました。

キャッシュ・フロー計算書

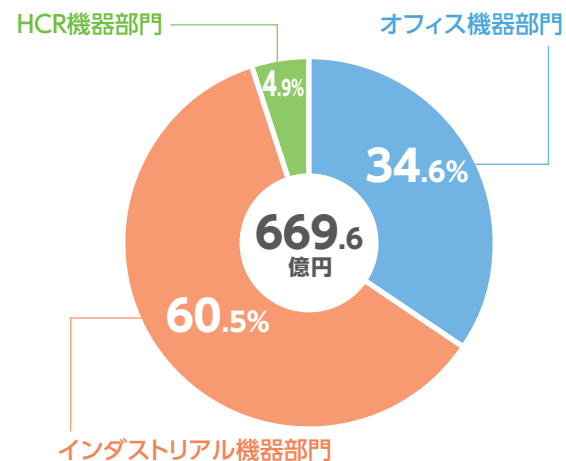
(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計年度 (皇 平成27.4.1 皇 平成28.3.31)	当連結会計年度 (皇 平成28.4.1 皇 平成29.3.31)
現金及び現金同等物の期首残高		15,343	17,783
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,471	8,512
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 570	△ 1,816
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,068	△ 2,152
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 392	△ 361
現金及び現金同等物の増減額		2,439	4,182
現金及び現金同等物の期末残高		17,783	21,965

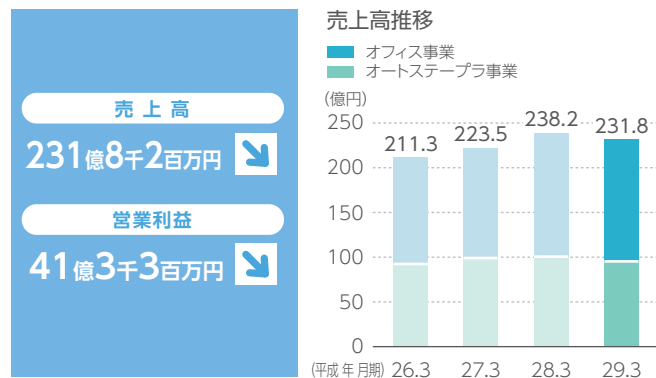
(*) 当期(四半期)純利益とは、「親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益」を指します。

セグメント別の概要

● 平成29年3月期売上高構成比



■ オフィス機器部門



オフィス機器部門

- ・ オフィス事業は、主力のホッチキスをはじめとした文具や事務機械を通じてオフィスワークをサポートしています。
- ・ オートステープラ事業は、複写機メーカーに搭載される電子ホッチキスおよび消耗品を供給しています。

インダストリアル機器部門

- ・ 機工品事業は、主力の釘打機をはじめとした木造建築用の工具、コンクリート構造物向けの建設用工具などを販売しています。
- ・ 住環境機器事業は、浴室暖房換気乾燥機、24時間換気システムなどを通じて、住まいの快適環境づくりを提案しています。

HCR機器部門

- ・ 車いすや歩行器など移動機器の供給を通じて、高齢者の自立生活を支援しています。

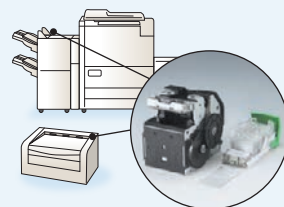
オフィス事業

国内は表示作成機「ビーポップ」販売が引き続き好調でした。一方、ホッチキス本体の販売は増加したものの、文具関連全体では減少となり、微減収となりました。海外は為替の影響があったものの、ビーポップやホッチキスの販売が伸長し、売上高は前年と同水準を維持しました。



オートステープラ事業

複写機市場の堅調な推移を背景に機械販売は増加しましたが、円高の影響から、減収となりました。



機工品事業

国内は新製品の充電工具をはじめとした木造建築用工具の販売が増加し、増収となりました。海外は木造建築用工具とコンクリート構造物向け工具の販売がともに増加したものの、円高の影響により前年と同水準の売上高となりました。

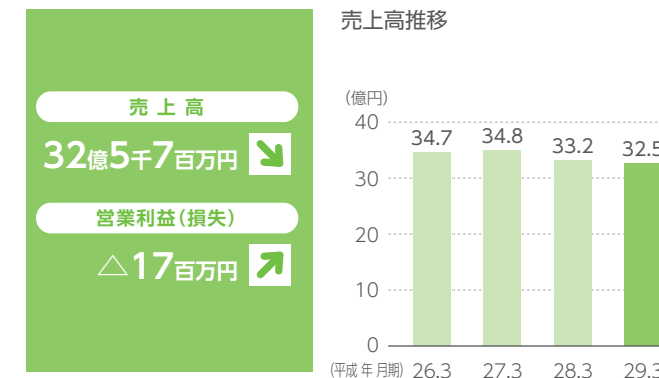


住環境機器事業

主力の浴室暖房換気乾燥機を戸建て住宅や賃貸住宅市場向けに拡販したことで、増収となりました。



■ HCR機器部門



HCR機器部門

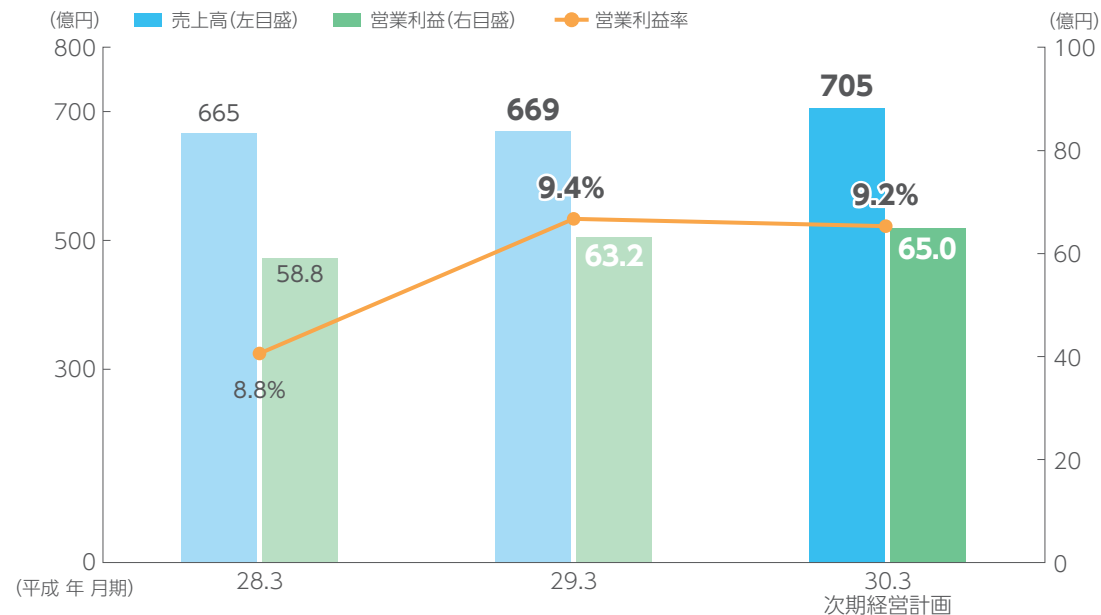
大手レンタルルート向けに新製品の採用に向けた提案活動に注力したものの、車いすの販売が減少し、事業全体では減収となりました。一方で、生産体制の見直しによるコスト削減や新設備投入による生産性向上に加え、前年に対して為替が円高に推移したことがコストダウンにつながり、営業損失が縮小しました。



次期事業計画について

■ 次期経営計画指標

■ 売上高・営業利益推移



	前期 (平成28年3月期)		当期 (平成29年3月期)		次期 (平成30年3月期)	
	実績	増減率 (%)	実績	増減率 (%)	計画	増減率 (%)
売上高 (億円)	665	2.4	669	0.7	705	5.3
営業利益 (億円)	58	11.2	63	7.5	65	2.8
売上高営業利益率 (%)	8.8	-	9.4	-	9.2	-
経常利益 (億円)	57	△ 2.5	64	11.4	66	3.0
親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)	35	9.0	47	34.6	46	△ 1.6
1株あたり当期純利益 (円)	71.27	-	95.93	-	94.37	-
自己資本当期純利益率 (ROE) (%)	5.4	-	7.2	-	6.7	-

■ 目標達成のために

オフィス機器部門

オフィス事業

・国内では、創業事業である「とじる」事業において、ホッチキスの市場シェア向上と、新とじ具紙針ホッチキスの市場開拓に取り組みます。また、表示作成機「ビーポップ」、ラベルプリンタ等の文字表示事業において、各市場の現場用途を捉えた提案活動と新たな需要開拓に取り組み、事業拡大を図ります。

・海外では、アジア新興国でのホッチキス事業の販売ルート・チャネルの強化により各国の市場拡大に取り組みます。また、文字表示事業では、英国ライトハウス社の欧州市場でのマーケティング手法を北米やアジア市場でも展開し、「ビーポップ」事業の規模拡大に取り組みます。

オートステープラ事業

・出荷先である複写機メーカーへの「デザインイン」活動により連携を深め、新製品の開発・新市場の開拓に取り組み、事業成長を目指します。



インダストリアル機器部門

機工品事業

・国内では、新設住宅着工戸数の変動など外部環境に対応するため、エリアマーケティングで市場を捉え、ニーズに合わせた製品提案を行い、事業拡大を目指します。木造建築用工具は新製品投入やセールスプロモーションにより事業基盤強化を図ります。コンクリート構造物向け工具は取引先との関係強化から大型物件への導入活動につながります。

・海外では、欧米市場において木造建築用工具の拡充と販売チャネルの構築により事業拡大を図ります。また、製品認知度の向上を目指します。

住環境機器事業

・戸建て住宅や賃貸住宅など既存市場の事業ボリュームの維持に加え、主力製品の電気式浴室暖房換気乾燥機を軸にリフォーム市場の開拓に取り組み、収益性の向上と事業拡大を目指します。



HCR機器部門

- ・グループ会社である(株)カワムラサイクルにおいて、車いすの生産設備の実用化による省人取り組みの推進と加工内作化により製造コストの削減に取り組みます。
- ・生産性の改善、収益力の強化に向けてモジュール分野での技術深耕を進めます。
- ・営業活動では、大手レンタル卸での導入活動を進めるとともに、有力取引先の開拓を行います。

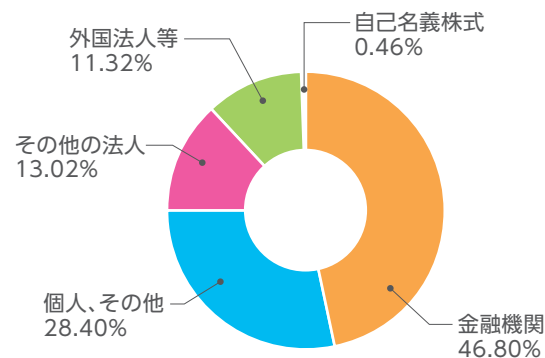


会社情報/株式の状況

会社概要 (平成29年3月31日時点)

商号：マックス株式会社
 本社：東京都中央区日本橋箱崎町6番6号
 設立：昭和17年11月26日
 資本金：123億6千7百万円
 従業員：2,655名
 グループ会社：連結子会社22社
 (国内10社、海外12社)

株式分布状況 (所有者別株式数比率) (平成29年3月31日時点)



発行可能株式総数: 145,983,000株
 発行済株式の総数: 49,500,626株
 株主数: 3,877人

取締役・執行役員 (平成29年6月29日時点)

代表取締役社長	黒 沢 光 照	上席執行役員	中 野 俊 和
専務取締役上席執行役員	樋 口 浩 一	上席執行役員	加 藤 賢 二
取締役上席執行役員	小 鯛 富 雄	主幹執行役員	岸 信 夫
取締役 監査等委員	梅 沢 宏	主幹執行役員	浅 見 泰
取締役 監査等委員(社外)	畠 山 正 誠	主幹執行役員	角 芳 尋
取締役 監査等委員(社外)	平 田 稔	執行役員	斎 藤 篤
		執行役員	小 川 辰 志
		執行役員	佐 原 隆
		執行役員	飯 島 裕 治
		執行役員	山 本 将 仁

大株主 (上位10位まで) (平成29年3月31日時点)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	4,284	8.70
マックス共栄会第一持株会	3,795	7.70
日本生命保険相互会社	3,762	7.64
マックス共栄会第二持株会	3,029	6.15
株式会社みずほ銀行	2,344	4.76
株式会社群馬銀行	2,114	4.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,624	3.30
明治安田生命保険相互会社	1,588	3.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,235	2.51
マックス従業員持株会	1,163	2.36

※持株比率については、自己株式228,862株を控除して算出しております。

利益配分に関する基本方針/配当/株主メモ

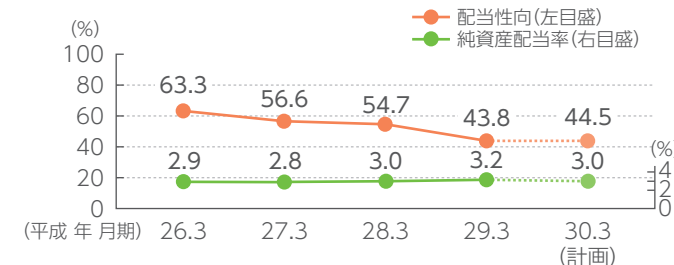
利益配分に関する基本方針/配当

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の最重要政策のひとつとして位置づけ、事業の成長を図り、事業利益を追求することにより自己資本当期純利益率(ROE)を向上させ、業績に裏づけされた成果の配分を行うことを基本方針としております。

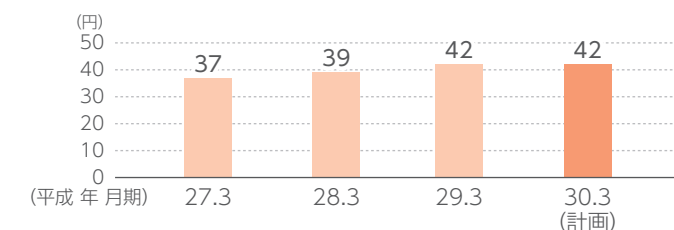
当社の配当政策は、連結決算を基準に「配当性向40%を下限とし、純資産配当率2.5%を目指す」と定めています。

当期の配当につきましては、事業収益が堅調に推移するなか、株主のみなさまからのご支援にお応えするため、前期から3円増配の「1株当たり年間配当金42円」とさせていただきます。

■ 配当性向/純資産配当率の推移



■ 1株当たり配当金の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月開催
 基準日 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 ☎ 0120-782-031 インターネットホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 単元株式数 1,000株
 公告の方法 当社ホームページに掲載いたします。<http://www.max-ltd.co.jp/>ただし、事故その他やむを得ない事由により、当社ホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 上場証券取引所 東京

単元株式変更に関するご案内

当社は、平成29年4月10日開催の取締役会の決議により、平成29年10月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更することにいたしました。

<http://www.max-ltd.co.jp/ir/> 本社 〒103-8502 東京都中央区日本橋箱崎町6番6号 TEL. (03) 3669-0311 (代)

第7回 マックス「心のホッチキス・ストーリー」入賞作品が決定!

応募作品の傾向

「心のホッチキス・ストーリー」は回を重ねるごとに応募数を更新し、第7回目となる今回は、前回に比べて5,041件増え、過去最多の12,897件もの応募を頂きました。作品の中には、周りの人に助けられた感謝の気持ち、窮地に陥った時にお互いに助け合う大切さなど、改めて“助け合い”の大切さを綴った作品が多く寄せられました。

引き続き、この企画がみなさまの心にある大切な“想い”をとどめるきっかけになれば大変嬉しく思います。



マックス・心のホッチキス大賞

滋賀県 男性 16歳 Ancio さん

電車の中には色々な人がいる、人に親切な人も、そうでない人も。

中学三年生の頃、一年間朝の通学の電車で、車いすの人と同じ車両に乗り合わせていた。車いすは通勤通学ラッシュの中で正直な話、大きすぎだ。だから乗り合わせた人の多くはその車いすの人を邪魔だと思っていただろう。僕もその一人だった。しかし、誰も何もそのことを言うことなく、しばらく僕は、ただ窮屈な車両にぼんやりと外を眺めながら乗ることになった。

あれは秋のことだっただろうが、雨が降っていて、いつもよりさらに車両に人が沢山乗っていて窮屈だった。車いすの人が降りる駅ではいつも駅員さんが折り畳み式のスロープを掛けてきてくれる。その日も駅員さんが来て、スロープをかけていた。その時、雨で滑ったのか、人が多かったせいか、理由はわからないが車いすのタイヤが一人のサラリーマンの足の指を靴の上から踏んでしまった。すると、そのサラリーマンの人は怒鳴りながら車いすを蹴った。別に大して痛かったわけではないだろう、たぶんその人もずっと車いすの人を迷惑に思っていて、踏まれたのをきっかけに我慢できなくなったのだと思う。僕はサラリーマンの人に「やめてください。」だったか、正確には覚えていないが、それか、それに近い言葉をかけた。別に僕は車いすの人を守りたかったのではなく、トラブルが起こって欲しくなかっただけだった。サラリーマンの人は不機嫌な顔をしたが、その場はそれで収まった。次の日から車いすの人とそのサラリーマンの人は同じ車両に乗っていた。僕は不思議に思ったが、いつも通り外をぼんやり眺めて乗っていることにした。

それから冬に入って受験が近くなった頃、いつもと同じ車両に乗っていて、車いすの人が降りる駅に着いた時、いつも来てくれる駅員の人がその日は来なかった。車いすの人は困っているようだったが僕はただそれを他人事だと思って外を眺めていた。するとサラリーマンの人が僕の肩をたたいて言った。「手伝ってくれないか。」すると、そのサラリーマンの人は車いすの片方を持った。何がしたいのか気付いた僕は急いで車いすのもう片方を持って、サラリーマンの人と車いすを持ち上げてホームに降ろした。サラリーマンの人は車いすの人に「前はすまなかった。」と謝り、車いすの人も「こちらこそ、ありがとう。」と言った。これははっきりと覚えている。その後車掌さんにアナウンスで急かされて僕とサラリーマンの人は車両に戻った。そして次の日から今までと同じように電車に乗った。気のせいかもしれないが、電車の中では誰も車いすの人を迷惑に思っていなかったようで、いつもより車両の中は温かかった。

電車の中には色々な人がいる、人に親切な人も、そうでない人も。しかし、その中で人は親切にも不親切にも変わり、親切にも不親切にも人を変えることができるのかもしれない。



マックス・U-18大賞(高校生の部)

和歌山県 女性 18歳 さくら さん

私は兄と6年間口をきいていない。

口をきかなくなった原因はささいなこと、今ではそのきっかけも思い出せない。

そんな兄と6年ぶりに会話した。大学のオープンキャンパスに行くために東京に住んでいる兄の家を訪ねた時のことだ。兄と私と弟。両親抜きで三兄妹だけで過ごすのは、幼い頃、祖母の家へ遊びに行っていた以来であった。久しぶりに過ごすその空間は少し息苦しくしばらくは沈黙が続いた。そんな沈黙をやぶったのは兄のほうだった。「さくらはどの学部を受けるん?」兄に名を呼ばれたのは久しぶりだった。「……看護」「看護か。やったらはよ行かなあかん。」

私は正直とても驚いた。あれだけかたくなに私を避けていた兄が自ら私に話しかけてきたからだ。私は兄のことを嫌いではない。むしろ大切な兄妹だと思っている。だからこそ話せなくなってしまうことをさみしく思っていた。

大学へ向かう道を少し前にいる兄の背中を追いながら歩く。決して広くはないその兄の背中を見つめながら考える。いつかまた小さい頃のように話せる日はやってくるのだろうか。兄は振り向かずにごんごん私を置いていく。それがごんごん心と心の距離を表しているようで、まだ少し時間がかかりそうだな、そんなことを思った。いつか並んで歩けるくらいにはなりたいな。兄に置いていかれぬように必死に後を追った。

詳しくは当社ホームページをご覧ください。
http://wis.max-ltd.co.jp/event_op



※他の受賞作品もご紹介しています。



印刷時に、VOC(揮発性有機化合物)などを含む湿し水が不要となる水なし印刷です。



CO₂を排出しないグリーン電力を一部使用している工場で印刷しています。



石油系溶剤の一部を植物油に置き換えたベジタブルインキを使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)に基づいた、読みやすい文字デザインを使用しています。